

I. 令和8年度事業計画書

(令和8年4月1日～令和9年3月31日)

社会の繁栄の基礎は、科学技術の進歩と産業経済の発展にあるとの考えに基づき、わが国の優れた独創的な研究開発を推進し、科学技術の発展と国民生活の向上に貢献したいという当財団設立提唱者市村清氏の想いを実現するため、令和8年度も関係各方面の方々のご支援・ご協力をいただき以下の事業活動を推進します。予算案の大枠ですが、経常収益に関しましては、株式配当が全体としては前年度予算時より増加の見込みのため、対前年度予算より78,118千円増（前年度着地見込みより52,027千円増）となります。また、経常費用に関しましては、事業費は前年度予算額より266,400千円増で、その他（管理費）は40,800千円増で、全体の経常費用計は、前年度予算額より307,200千円増ということになります。

1. 科学技術の研究開発助成

1) 新技術開発助成

科学技術に関する独創的な技術を実用化するために技術開発の努力をしている中小企業へ助成します。コロナ禍では、応募が減少しましたが、令和6年度、令和7年度は、応募が増加傾向になりました。そこで、引き続き中小企業の技術開発が社会に役立つ製品につながるよう充実・強化していきたいと考えており、令和8年度は、応募数に応じて助成する件数を年間6件程度増やし、24,000千円×6件の144,000千円増額、また、応募企業の調査情報を強化するため12,000千円増額とし、合計687,000千円（R07年度予算比156,000千円増）を計上します。

2) 地球環境研究助成

21世紀の重要課題である地球温暖化防止に係わる研究開発を行っている研究者に助成します。令和8年度は9年目を迎えますが、助成金15,000千円（原則3件）と応募者の間接経費分30%、調査・審査費、広報費を含め、37,000千円（R07年度予算と同額）を計上します。

2. 科学技術顕彰と国際交流

1) 科学技術顕彰

科学技術に進歩をもたらし、もってわが国の経済社会の発展と国民生活の向上に寄与する産業、学術両分野の進展に多大の貢献をされた個人またはグループを市村賞として表彰します。市村賞は産業・学術界において顕著な賞として認知されており、引き続き顕彰事業の充実を図っていききたいと考えています。

令和8年度は産業賞、学術賞、地球環境賞の賞金114,000千円と調査・審査・贈呈式費用、広報費を含め、319,000千円（R07年度予算比6,000千円増）を計上します。

市村産業賞	本賞	1件	賞金	(30,000千円)	記念牌
	功績賞	2件	賞金	(10,000千円)	記念牌
	貢献賞	5件	賞金	(5,000千円)	記念牌

市村学術賞	本賞	1件	賞金	(30,000千円)	記念牌
	功績賞	3件	賞金	(10,000千円)	記念牌
	貢献賞	4件	賞金	(5,000千円)	記念牌
市村地球環境賞	功績賞	2件	賞金	(10,000千円)	記念牌
	貢献賞	4件	賞金	(5,000千円)	記念牌

市村賞受賞記念フォーラムも8回目となりますが、令和8年度は、会場が変更になり、また、20-30歳に訴求するため、SNSなども使った広報活動を強化していきます。そのために62,000千円(R07年度予算より17,000千円増)を計上します。

2) 国際技術交流

市村学術賞・地球環境学術賞受賞者が受賞研究に関連する国際会議、国際研究集会に出席する場合に渡航費を助成します。

また、わが国において国際会議等の国際技術交流の場を開催しやすくするための支援を積極的に行うため、市村学術賞・地球環境学術賞受賞者が国際会議等の運営責任者である場合、会議運営費の一部を助成します。

実績は状況により毎年変動しますが、令和8年度は両方併せた国際技術交流費として、40,000千円(R07年度予算と同額)を計上します。

3. 科学技術の創造性育成

1) 市村アイデア育成

次代を担う小・中学生を対象として、科学への追求、創造への意欲を高めるよう育成するもので、小・中学生のアイデアの芽生えを奨励するため、独創的なアイデアを募集し、その優れたものを表彰します。

令和8年度は、応募用紙の電子化、広報のIT化など効率的な募集活動費用や奨学金等の育成費用、広報費、参加賞の経費、表彰式会場の変更等として84,000千円(R07年度予算比18,000千円増)を計上します。

2) キッズ・フロンティア・ワークショップ

小・中学生を対象に科学技術に関する講話や実験・製作などを通して、科学の原理を楽しみながら理解し、さらに科学技術への興味、意欲を高めてもらうことを狙いとするワークショップを実施します。

毎年、東京と地方で実施しており、例年好評を得ています。

令和8年度は引き続き内容の充実を図り、東京で半日コースを1回、東京近辺として、千葉、埼玉、神奈川などで一日コースを1回(土日2日間)、地方で一日コースを1回(土日2日間)の計3回実施する費用、財団で行っていた作業などで外部施設を利用する費用を含めて、31,500千円(R07年度予算比6,000千円増)計上します。

4. 植物生育の研究助成

1) 植物研究助成

植物の生育環境および計測技術に関する研究の場として植物研究園を提供するとともに研究費を助成します。

令和8年度も、助成対象研究として植物の生態、その為に必要となる計測技術、及び植物多様性の保全・再生などの研究助成を行い、調査・審査費、広報費等を含め、植物研究助成費として50,250千円(R07年度予算と同額)を計上します。

2) 植物研究園運営

令和8年度は研究園の一般開放で引き続き多くの来場者が見込まれ、安全性と利便性向上、研究園の維持管理をメインとし、運営費用として75,400千円(R07年度予算比21,400千円増)を計上します。テストフィールドは、長年放置されていましたが、植生などの調査、改修を実施し、有効利用を検討していきます。

5. 事業共通

事業広報

財団の事業内容を広く知っていただくための主な広報活動として、ホームページの運用、年報の発行、広告等を引き続き行います。令和8年度は財団の認知度向上に向けた告知広報活動をさらに強化、IT化を進め、HP更新、プロモーション強化のため85,500千円(R07年度予算比42,000千円増)を計上します。

6. 管理費

通信運搬費

財団本部の引っ越し費用などとして7,700千円(R07年度予算比5,200千円増)を計上します。

賃借料

建て替え中の仮事務所の賃貸料として30,000千円を含めて37,200千円を計上します。

会計処理・監査経費

令和8年度決算の会計監査人の監査費用、会計システムの導入費用としてとして、4,200千円(R07年度予算比500千円増)を計上します。

7. 建物除却損

建物解体費用として176,000千円を計上します。

8. その他(投資活動)

令和8年度は、植物研究園改造費として、9,500千円(R07年度予算比21,212千円減)を計上します。また、本部内施設改造等支出として、擁壁工事459.8百万円、本部建屋設計関連107.7百万円、本部建屋建築工事関連476.7百万円を計上します。また、植物研究園建て替え積立金として250百万円を計上します。